

老人世帯向公営住宅における住まい方
 —親子隣接ペア住宅における親子両世帯間の生活分離—
 広島大 教育 菊 沢 康 子

目的 親子隣接ペア住宅では親(老年)世帯と子(若年)世帯が隣り合って住み、日常生活では入浴以外の生活行動は互に独立して生活できるように計画されている。この住宅の居住者は親・子独立した生活をどの程度営んでいるのか、また、その独立状態を左右している要因は何か、などを調べることを目的とした。

方法 昭和52年11月と53年3月にそれぞれ、福岡市営、大阪市営のペア住宅の入居世帯を訪問し、老年世帯主婦125名を対象に面接聴を取り調査を行ない、66名より回答を得た。

結果 ①ペア住宅へ入居前の居住形態は、同居27世帯、別居39世帯であった。入居前の親の住宅は民間アパートまたは文化住宅であった者が約7割を占めていた。

②ペア住宅へ入居した理由は、同居していた者は住宅の広さや設備などの居住条件の改善を求めて入居したものが多く(67%)、別居していた者は、親の老化に伴う健康状態の心配から親の面倒を見るのに都合よいことをあげた者が72%と多かった。

③親子が各生活行動を互に独立していた世帯の割合は 就寝100%、炊事44%、食事53%、TV観賞79%、掃除61%、洗濯42%、家計52%であった。特に炊事、食事に関して、以前別居していた者は親子が独立して生活を営んでいる世帯が多く、同居していた世帯は、その逆傾向が認められた。

④ペア住宅を、これに入居前の住宅と比較しての「住みよさ」に関して質問した結果、前居住形態や現在の生活の独立状態にかかわらず、住みよくなったと答えるものが多かった。